

164 せきしょやぶ さくら 関所破りの桜



指 定 市天然記念物 昭和44年 5 月15日
 所在地 甲
 所有者 市川 恒世



植物分類上は、バラ科、サクラ属、エドヒガンの園芸品種とされる。シダレザクラ（別名イトザクラ）である。

樹高約12m、目通り周囲3.2m、推定樹齢300年

現在五郎兵衛記念館が建っている場所には、かつて市川五郎兵衛を祀った真親神社まおぢかが建っていた。そのおこりは、明和元年（1764）に五郎兵衛を祀った石祠で、その後寛政6年（1794）に「真親霊神」という神号が授けられ、文化8年（1811）には本殿と拝殿が再建されたという（『北佐久郡川西地方神仏祠堂考』）。

関所破りの桜は、この真親神社まおぢかの社前（参道の脇）に植えられたもので、いつの頃かはわからないが、市川家からよい枝垂れ桜しだれさくらが慈眼寺じげんじ（現群馬県南牧村）にあるのでとりまくるよにとの連絡があった。そこで村人が受け取りにいったが、うっかり関所の通行手形を忘れてしまった。しかし、わけを話したところ、無事関所の通行をゆるされた。このことから関所破りの桜とよばれるようになったという。なお、地元では別に「苗代桜」ともよんでいる。

ちなみに五郎兵衛新田村誌によれば、真親神社はその後、明治5年（1872）に諏訪神社の境内へ移され、その末社とされた（『長野県町村誌』）東信篇。